

令和6年度 教育研究推進計画

1 研究主題

主体的に学習に取り組む態度を育成する算数科の授業づくり
—「～したい」を引き出す教材研究と基礎学力充実を通して—

2 研究仮説

教材研究を通して、単元で価値づけたい数学的な見方・考え方を明らかにし、児童の「～したい」を引き出す授業を系統的に行えば、児童に主体的に学習に取り組む態度を育くむことができるであろう。また、基礎学力が身に付き、正しい計算ができれば、児童が意欲的に学習に向かう力になるであろう。

3 主題設定の理由

昨年度、「主体的に学習に取り組む態度を育成する算数科の授業づくり—「～したい」を引き出す教材研究を通して—」と設定し、算数科を中心に取り組みを進めてきた。

【成果】

○昨年度の全国学力学習状況調査や三次市学力到達度検査の結果から、課題のあったC領域【低学年：測定 高学年：変化と関係】に絞り研究を行った。今年度の三次市学力到達度調査の算数科の正答率は3年75.8%、4年46.5%、5年76.4%、6年85.4%であった。C領域の正答率は3年81.3%、4年70.8%、5年65.6%、6年77.7%で今年度の結果においてはC領域に特に課題があるということはなく、3、4年では他の領域よりも正答率が高かった。

【課題】

- 全国学力学習状況調査において、割合をいろいろな表現で表す問題の正答率が低かった。
(33.3%)
- 全国学力学習状況調査及び三次市学力到達度検査において、四則計算が正しくできないために立式できて正答に結びついていないことがわかった。
- また、文章を読み取る力に課題があり、文章を整理しながら必要な情報を読み取ることが難しい。
- 計算のスピードが遅く、文章の読み取りに時間がかかることで、時間内に問題を解ききることができない。

3年はほかの教科に比べて算数科の正答率が高いが時間が足りず最後の問題までたどり着けていない。

4年は全体的に低く、中には折れ線グラフの問題2問と角度の問題1問の計3問で正答率が0%のものがある。

5年は平均を求める際の計算間違いが目立った。

6年はよくできているが、説明する問題の正答率がほかの問題に比べて低かった。

これまで教材研究を通して、身に付けるべき「数学的な見方・考え方」を明らかにすることで、児童の問題意識を引き出し、子ども自身が見出した問いとして、「考えたい」「解決したい」が続くような授業が行えるよう研修を行ってきた。さらに教師が系統性を把握し、問題解決のために用いる「数学的な見方・考え方」を低学年のうちから意識させ、繰り返し学習させることで、子ども自身が既習事項を活かしながら学習を進めていくことができると考え、研究を進めてきた。しかし、算数科全体の学力向上が十分達成できたとは言い切れない。

2年間の研修で、算数科における系統性と「数学的な見方・考え方」を明らかにし、それらを意識した教材研究へと深め、子ども自身が「数学的な見方・考え方」の良さやそれらを働かせながら学習を進めることの楽しさを感じることができるよう、授業改善を行ってきた。その結果、今年度はC領域での正答率の伸びが見られた。また、3.4年でC領域の正答率が高かった理由は、C領域の研修を行い授業改善を行った教師の意識の変化が関係しているのではないかと考えられる。この成果をふまえて、今後はC領域のみならず他領域でも力をつけていくことをめざしていきたい。

そこで、今年度の研究主題を、昨年度同様「主体的に学習に取り組む態度を育成する算数科の授業づくり」とし、副題を『「したい」を引き出す教材研究と基礎学力の充実を通して』と設定した。児童の「したい」を引き出すためには土台の基礎学力の充実が不可欠だと考えた。既習事項が身につけていないと、新しい解き方や考え方を見つけることが難しい。児童の実態より「わかる」が「したい」につながると考えられるので、「わかる」助けとなる計算力や文章読解力をつけるための取組にも重点を置いて進めていく。

1年間を通して2学年ずつの3つのブロックに分かれて、日常的に教材研究を行ったり、授業を見合ったり、基礎学力をつけるための宿題やドリルタイムの活用の仕方等を交流することで、取組を継続させ個々の研究を積み上げたい。さらに全体交流を行い、取組をお互いに共有しながら「数学的な見方・考え方」の系統性を意識した授業づくりを目指し、日々の授業改善を行いながら、基礎学力をつけていく。

4 研究内容

- ・教材研究を通して、「単元で身に付けるべき数学的な見方・考え方とその系統性」と「授業の中で児童がその数学的な見方・考え方を働かせるための工夫・支援」を明らかにし、授業を改善していく。
- ・基礎学力をつけるための取組方法。家庭学習の出し方、ドリルタイムの活用、補充プリントの問題の作り方等実態に合わせて工夫し、改善する。

5 研究方法

- 授業研究においては、本時案の中に、「数学的な見方・考え方」を働かせている児童の姿を「引き出した児童の姿・発言」として具体的に明示する。
- 既習事項がしっかりと身に付くように家庭学習やドリルタイム、補充プリントの活用を工夫する。
- 文章読解力を付けるために、週末作文、考え読みを取り入れた読み聞かせを行う。

6 検証の視点

- ・主体的に学習に取り組む意欲が高まっているか。
- ・主体的に学習に取り組む意欲が高まった結果、学力の向上が見られたか。

- ・基礎学力（知識）が高まり，計算力（速さ，正確さ）が身に付いたか。
- ・以前より自分の考えを言葉で表現できるようになったか。

7 検証方法

- ① icheck の算数アンケートにおける変化
- ② 全国学力テストにおける正答率の伸び
- ③ 三次市学力到達度検査の正答率の伸び
- ④ 単元末テスト